

道徳学習指導案

平成30年11月16日（金）
第2学年

授業改善の視点

初めて「私」が自分と向き合い今の自分を受け入れようとした心の変化を考え、話し合わせたことは、自己を見つめ直し、個性を伸ばして充実した生き方を追求し、前向きに取り組もうとする道徳的実践意欲を育てる上で有効であったか。

- 1 主題名 「自分を探そう」 （中心内容項目 A：向上心、個性の伸長）
（関連内容項目 A：克己と強い意志、希望と勇気）

資料 「私は十四歳」
（出典：「中学道徳2 明日をひらく」東京書籍）

2 主題設定の理由

(1) 学びのつながり

本主題は、学習指導要領「特別の教科 道徳」の内容「A 主として自分自身に関すること」の「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」に基づいたものである。

小学校 高学年	個性の伸長	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	向上心、個性の伸長	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

小学校の段階では、特に高学年で、自分が気付いた長所に目を向けそれを維持し伸ばそうとする態度を育てるとともに、自分の短所をしっかりと見極め、それを課題として改善し、自分自身を伸ばしていくことについて学習してきた。

中学校第1学年では、資料「ぼくの性格をつくった友人」を活用し、自己受容、自己理解を深めつつ自尊感情を高め、自身の良さを伸ばしていくことを学習した。

ここでは、資料「私は十四歳」を活用し、現在の自分を見つめ直し個性をよりよい方向へ伸ばしより輝かせようとするのが充実した生き方につながることを考えさせ、前向きな取組を繰り返していこうとする意欲をもつことが大切であることを捉えさせたい。

(2) ねらいとする道徳的価値について

自己理解が深まる中学生の時期は、自分なりの生き方、在り方についての関心が高まってくる。その中で、理想の自己を描きながらそれに近づきたいと願う一方で、理想と現実とのギャップに一人思い悩むことも少なくない。また、他人の目を気にして人と異なることへの不安から個性を伸ばすことに消極的になり、反面、他人と同等に扱われることを嫌い、個性をはき違えがちな生徒もいる。生徒には、どんな環境においても自分のよさを見いだしそれを伸ばそうと努める意欲を育て、そのことがより充実した生き方につながっていくことを自覚させたい。

(3) 生徒の実態（略）

(アンケート結果)

自分には良いところがある

(思う〇名、あるかもしれないけれど、分からない〇名、思わない〇名)

自分の良いところを見つけようとしている

(している〇名、していない〇名)

難しいことでも失敗を恐れず挑戦している

(している〇名、どちらとも言えない〇名、していない〇名)

(4) 資料について

本資料は、自分のよさに目を向けてそれを生かし伸ばそうとすることが、より充実した生き方につながることを考えさせられる内容である。主人公は、小学校から続けてきたバスケットボールで自信をなくし、自分を取り戻すために部活動をやめ、新たな自分を求めて葛藤する。小学生の頃はバスケットボールをしている時間が充実感を与えてくれる最も自分らしい時間と感じていた主人公だったが、中学生になり、予想以上につらい練習から自信を失い、何のためにバスケットボールをやっているのかわからなくなってしまう。しかし、自分探しの旅を続ける中で、初めは、自分のやりたいことが見つからず苦しむが、自分の無力さを反省しながらも、ジャズダンスとの出会いを通して、徐々に自分らしい生き方を見つけ、希望を抱いていく。自己との対話を深めつつ、自信をもって自分の良さを出せるようにさせるとともに、充実した人間としての生き方について追求しようとする道徳的実践意欲を持たせたい。

本資料では、主人公の「私」の気持ちの変化を中心に考えさせることでねらいに迫りたい。主人公の考えに共感したり反発したりしながら、それぞれがじっくり個と向き合い、自分を見つめさせたい。「私」の気持ちを多面的・多角的に考えることによって、自己を見つめ、自分の良さを生かし、更に伸ばしていこうと前向きに考え、取り組もうとする道徳的実践意欲を育てていきたい。

3 指導方針

- 道徳的価値が大切なことを理解したり、葛藤したりしている生徒を見取りやすくしたりするためにTTで授業を行い、T1とT2が話し合いの班を分担して支援したり、一斉授業の中で役割分担をしたりする。
- 導入では、本時の主題に関わる問題意識をもたせ、現段階での自己理解の状況を見える化するために、自分の良さに関するクラスのアンケート結果を提示し学習テーマにつなげる。
- 主体的に道徳的価値について考えさせるために、登場人物を自分に置き換えて「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を考えさせる。
- 小グループでの話し合いは、まず一人一人の意見を発表させ、いろいろな考えに触れさせる。そしてその班の意見全てを、短冊に短い言葉でまとめさせるようにし、その際、他者の意見についての

疑問点や共感できる点も話し合わせることで、話し合いを活性化させる。これにより、一人一人の生徒が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深められるようにする。

- ・小グループでの話し合いの場のあとに全体での意見交流の場を設定する。短冊を使って根拠となる考えを述べるようにし、交流させながら他者理解を深め、多面的・多角的な見方や考え方へと発展させる。
- ・前向きな取組を繰り返し、自分自身が納得できる充実した生き方をすることが大切であることを考えさせるために、再度アンケート結果に触れ、考えをワークシートにまとめさせる。
- ・そして授業の中で意図的に指名をして意見を出させ、効果的に

4 校内研修とのかかわり

本校の校内研修主題・副主題は『進んで他者とのかかわり、より良い生き方を追求する生徒の育成－「考え、議論する道徳」の指導の充実を目指して－』である。

この授業を通して、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求することについて目を向けさせられると考える。

また、話し合いや意見交流の場で他者理解を深めさせることで、道徳的価値の理解を深め、多面的・多角的な見方や考え方へと発展させることができると考える。

5 本時の学習

(1) ねらい

「私」の心境の変化に注目させて考えさせることより、個性を伸ばして充実した生き方を追求し、繰り返し前向きに取り組もうとする道徳的実践意欲を育てる。

(2) 準備 副読本、ワークシート、挿絵、短冊

(3) 展開

過程	学習活動	主な発問 (○基本発問、◎中心発問) と予想される生徒の反応 (・) (期待される反応は_____)	時間	支援及び留意点
導入	1. 本時の学習テーマをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <学習テーマ> 自分らしい生き方をするには </div>	前回の「虎」の授業をもとに自分のよさを見つけようとしたかを問いかける。	3分	・道徳的価値を捉え、生徒の意識を道徳的価値に向かわせられるように、自分の良さに関するクラスのアンケート結果をテレビモニターで提示し、学習テーマを共有する。
展	2. 資料の範読を聞く。 3. あらすじを確認する。		8分	・「私」の気持ちや行動に着目しながら範読を聞くように促す。 ・T2が範読し、T1が生徒の様子を観察する。 ・T2が資料のあらすじについて全体で確認する。

開	<p>4. 「私」が迷ったけれど、バスケットボール部を辞めたことを考える。 (個人で考える)</p> <p>〔* 「私」がどんな気持ちでバスケットボール部を辞めていったか、意見の交流をする。〕</p> <p>5. 「私」の気持ちが変わり始めたところを考える。 (個人で考える)</p> <p>〔* 「私」の気持ちの変化について考え、意見の交流をする。〕</p>	<p>○ 「私」はなぜバスケットボール部を辞めたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>目標を失ったから。</u> ・ <u>自信を無くしたから。</u> ・ <u>バスケットボールで認められなくなってしまったから。</u> ・ <u>自分の実力のなさに気付いた。</u> ・ <u>勉強と部活の両立が難しいから。</u> ・ <u>逃げ出した。</u> <p>○ 「新たな自分に出会うためのチャンス」と考えた「私」はどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新しいことにチャレンジしたい。</u> ・ <u>後悔のない生き方をしたい。</u> ・ <u>新たな自分を見つけたい。</u> ・ <u>もっと広い世界を見たい。</u> ・ <u>前向きな気持ち。</u> 	<p>3分</p> <p>3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物を自分に置き換えて考えたり、自分なりに具体的にイメージしたりしているかを見取るため、T1が中心となって授業を展開しT2は生徒の様子を観察する。 ・ 何人かの生徒に発表させる。 ・ 辞めた後も悩んでいたことと、その間も自分と向き合い続けたことをおさえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発問の前に挿絵を提示し、「私」の気持ちの変化をおさえる。 ・ 教科書から言葉を探すのではなく、このときの「私」の気持ちを考えて、自分の考えを言葉で書かせられるよう、助言をして支援する。 ・ 何人かの生徒に発表させる。
	<p>6. 「私」の気持ちが切り替わり自分のよさに気付いたことについて考える。 (個人で考える)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(小グループで話し合う)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(発表)</p> <p>〔* 他者と議論する。 * 多面的・多角的に考える。 * 道徳的価値の理解を深める。〕</p>	<p>◎ 「私の中で何かが変わり始めた。少しずつ私の姿が見えてきた」のは、なぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分らしさに気づいた。</u> ・ <u>自信がついた。</u> ・ <u>本当の自分に出会えた。</u> ・ <u>好きなことに出会えたから。</u> ・ <u>自分の思いをダンスで表現できたことで自信がついた。</u> ・ <u>自分が表現する喜びに出会えて変わったから。</u> ・ <u>今の自分を受け入れた。</u> ・ <u>視野を広げ自分を見つめ直したから。</u> ・ <u>自分と向き合えた。</u> ・ <u>輝いている自分を目指そうと思えた。</u> ・ <u>達成感を感じた。</u> 	<p>2分</p> <p>3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて「私」が自分と向き合い自分の良さを生かそうと決意した心の変化を捉えさせ、道徳的価値について理解が深められるようにする。 ・ 広い視野をもって自分の可能性を追求することの必要性を感じとらせる。 ・ 多面的・多角的な見方ができているかどうかを見とりやすくするために、T1とT2は班を分担して生徒の様子をよく観察する。また、班ごとに生徒が考え議論しやすくなるよう、助言をして支援する。 ・ 構造的な板書をつくるために、短冊を使って出てきた意見をまとめる。 ・ 何人かの生徒に発表させる。 ・ 必要に応じて「この後、「私」はどんな中学校生活を送ったのでしょうか」などの発問を補足していく。

終末	7. 自分自身について振り返り、本時のまとめをする。 *道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。	○今日の授業で考えてきたことやこれまでの自分の生活を振り返ってみて、感じたり考えたりしたことを書きましょう。	10分	・再度アンケート結果に触れ、自分自身が納得できる充実した生き方について考えさせる。 ・何人かの生徒に発表させる。
----	--	--	-----	---

(4) 評価の視点

- ・「私」の心境の変化を考えることにより、充実した生き方についての理解を、自分との関わりで深められたか。
- ・「私」の心境の変化を話し合うことにより、自分らしい生き方について、多面的・多角的な見方ができていたか。

6 板書計画

第 24 回 道徳

◎自分らしい生き方をするには

『私は十四歳』

挿絵①

○「私」はなぜバスケットボール部を辞めたのでしょうか。

挿絵②

○ 新たな自分に出会うためのチャンス」と考えた「私」はどんな気持ちだったのでしょうか。

◎ 私の中で何かが変わり始めた。少しずつ私の姿が見えてきた」のは、なぜでしょうか。

「私は十四歳」

2年 組 番 名前

◎「私の中で何かが変わり始めた。少しずつ私の姿が見えてきた」のは、なぜでしょうか。

(「私」がダンスをしているイラスト)

●今日の授業について、今までの自分を振り返って気付いたり考えたりしたことを書きましょう。